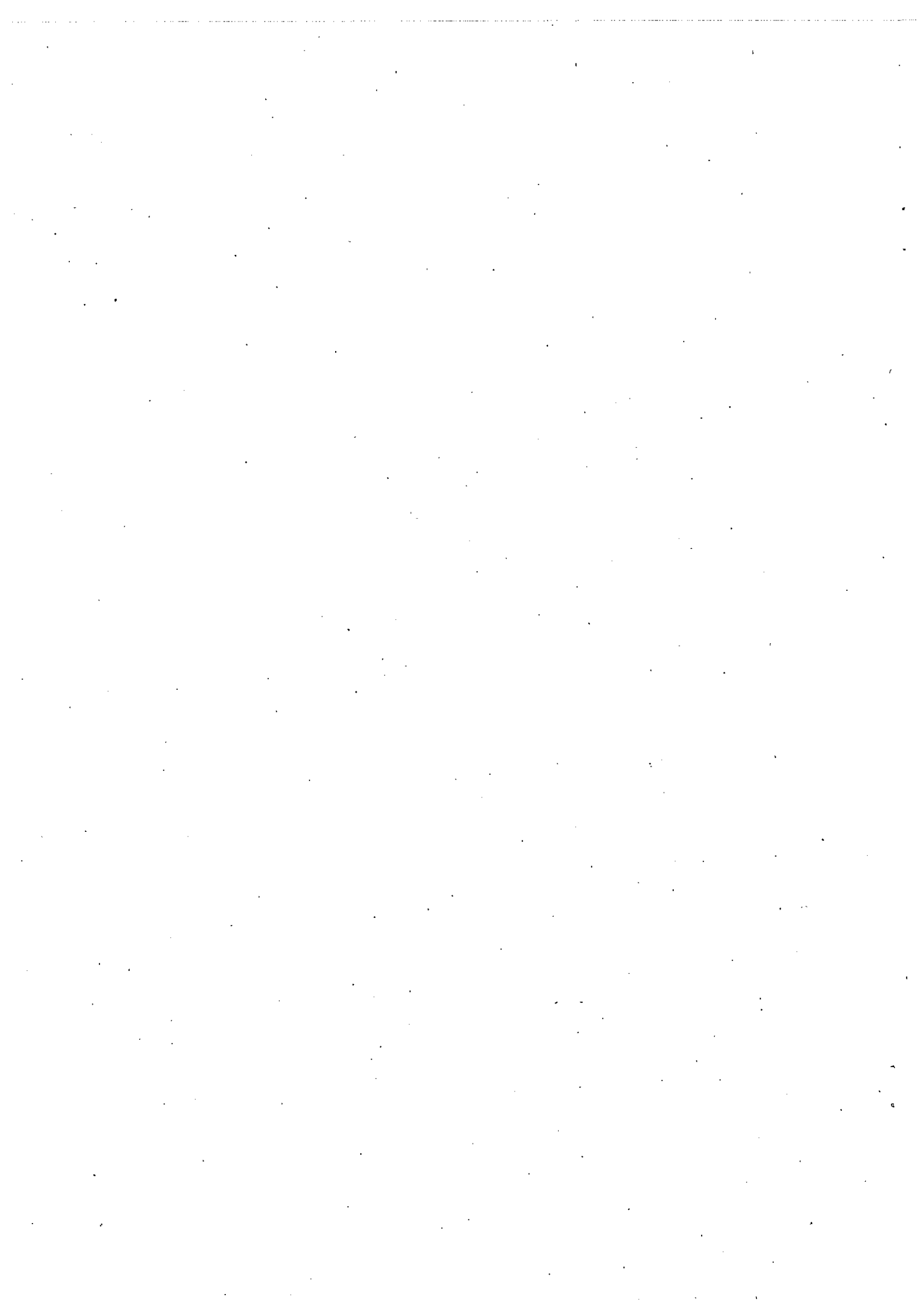


地域づくり県土警察常任委員会資料

(令和元年11月29日)

- 1 多様化する県民意見に対応した広聴事業の実施結果について
【県民参画協働課】・・・1ページ
- 2 第74回国民体育大会における鳥取県選手団の結果について
【スポーツ課】・・・3ページ
- 3 第3回関西シニアマスターズ大会鳥取大会の開催結果について
【スポーツ課】・・・6ページ
- 4 中山間地域等活性化・移住定住促進協議会の開催結果について
【中山間地域政策課・ふるさと人口政策課】・・・7ページ
- 5 ティーエスアルフレッサ株式会社との中山間集落見守り活動に関する協定の締結について
【中山間地域政策課】・・・8ページ
- 6 第3回新たな地域交通体系構築のための研究会の開催結果について
【地域交通政策課】・・・9ページ
- 7 米子鬼太郎空港のリニューアルオープンについて
【地域交通政策課】・・・11ページ
- 8 大山道（坊領道）の「歴史の道百選」の選定について
【とっとり弥生の王国推進課】・・・12ページ

地域づくり推進部



多様化する県民意見に対応した広聴事業の実施結果について

令和元年11月29日
県民参画協働課

多様化する県民からの意見を県政に反映させるため、若者グループによる広聴活動や幅広い世代で構成する県政モニターによる広聴事業を実施しました。

1 若者広聴レンジャー事業

「とっとり若者広聴レンジャー」に任命した学生の若者4グループ（18名）に、県民からの様々な意見を聴きながら課題を探求していただき、これの課題解決策の提案を若者視点で行っていただいた。

グループ名	提案の概要
ツナガルドボク中国 (鳥取大生5名+鳥取大職員1名)	「学生の県内就業の促進～建設業を対象に～」 オンライン上で県内企業間交流を促して県内企業の人事・採用能力の向上を図るとともに、県内企業内定者（移住者）と学生・保護者との座談会や学生と社会人の日常的な交流の促進により、県内企業で働くことの実情や魅力を学生・保護者に十分に伝え、県内就業を促進する。
米子高専・電子制御工学科・河野研究室チーム (米子高専生4名)	「高齢者に優しい社会の実現（高齢歩行者の交通事故防止）」 歩行者の接近に伴い、歩道と車道間に設置したランプが点灯し、これにより車両運転手により早く歩行者の存在を知らせ、安全確認を促す装置・システムを開発することで、高齢者の交通事故を防止する。
小松と愉快的仲間たち (鳥取大生4名)	「若者が鳥取県に定住するために必要なこととは」 広聴活動の結果、県内企業の魅力を知る機会がないまま県外企業に就職するケースも多いと思われることから、小学生向けホームページへの企業紹介動画の掲載や高校生向けに理系・文系別の就職ガイドブックを作成するなど、県内企業を知る取組の強化により若者の県内定住を促進する。
環大レンジャー (環境大生4名)	「自然を身近に取り入れる（鳥取県民と自然を繋げる）」 自然を楽しむカフェやナチュラルリサーチャー育成の取組、自然史の専門家と県民とをつなぐ拠点を整備し、自然に対する関心の醸成と若手専門家の育成を図ることで、本県の豊かな自然環境の科学的な分析・評価を推進し、本県の自然に対する新たな誇りと魅力発信につなげる。

〔活動内容〕

- ・地域活動への参加、SNS等を通じた広聴活動〔6月12日任命～〕
- ・広聴レンジャー会議〔7月31日、10月30日〕
- ・知事への提案報告〔11月27日〕

2 県政モニタリング事業

2つの県政テーマ（「地域防災力の向上」、「健康づくり」）について、テーマ毎に委嘱したコーディネーターのもとで公募による県政モニター12名（各テーマ6名）から「県民目線・県民感覚」による課題整理や改善に向けた提案を行っていただいた。

テーマ	提案の概要
地域防災力の向上	<p>【防災意識の啓発】</p> <p>災害の危険を自分のこととして意識してもらうことが重要で、映像による災害の見える化や人権教育と同様の防災教育の推進のほか、例えば鳥取県防災の日のような県民が一体感をもって防災を意識できる機会を設ける。</p> <p>【支え愛マップを普及させるための方策】</p> <p>支え愛マップの意義について、防災だけでなく地域福祉等にも有効であることの実例を事例集に掲載して周知する。</p>

	<p>【ITを活用した地域防災力を向上させるための方策】</p> <p>電子回覧板等のITを活用することは、災害時の地域防災力の向上だけでなく、平時の支え愛マップの機能補完等にも期待できることから、自治会への導入に向けて、例えばパッケージソフトを用意するなどの普及支援等の検討を行う。</p> <p>【避難所の環境改善による地域防災力を向上させるための方策】</p> <p>避難所の環境など避難をためらう要因の解消に向けた支援や、知事や市町村長、地域リーダーからの呼びかけなど早期避難の仕組みの検討を行う。</p>
健康づくり	<p>【既存事業（健康マイレージ事業、19のまちを歩こう事業）の改善】</p> <p>既存事業をより多くの県民の方に知っていただくよう、人に知られる工夫を行う。加えて、県民の一般的なスポーツ事情等に合ったマイレージ加算対象の検討や参加意欲の喚起方法、事業参加対象年齢引き下げなどの見直しを行う。</p> <p>【広報のあり方の改善】</p> <p>これまでの広報の方法だけではなく、SNSなど新規媒体の活用や自治会・老人会など既存コミュニティを通じた口コミによる広報などの工夫を行う。</p> <p>【地域資源を活用した健康増進】</p> <p>各地域に整備されたサイクリングロードや倉吉市のボルタリング、砂丘でのポケモンGOなど、地域資源を活用した健康づくりを推進し、〇〇の町というような各市町村のシンボリックなスポーツとして取り組まれる工夫を行う。</p> <p>【「歩く」「自転車」をライフスタイルに組み込む仕掛け】</p> <p>全国的に見ても「歩かない」現状の改善に向けて、徒歩10分圏内の歩くことの推奨やアプリを活用した歩数競争、公共交通と組み合わせた移動の推進などで、「歩く」「自転車」をライフスタイルに組み込む仕掛けを行う。</p> <p>【健康と食について】</p> <p>カレーやコーヒーの消費量の多さを活かし、「鳥取県カレー」など文化として発信することで、健康と食を意識するきっかけづくりを行う。また、農業県であることを活かし、鳥取県の食材を使ったレシピの発信や健康に配慮した飲食店の認定、県民が野菜を安く入手しやすい仕組みづくりなどを行う。</p>

〔活動内容〕

- ・モニター会議での意見交換〔6月～8月、3回〕、レポート提出〔テーマ1:2回、テーマ2:1回〕
- ・県への提案報告（地域づくり推進部長、担当課長）〔10月28日〕

3 今後の予定

いただいた提案は、今後の事業実施や令和2年度予算要求等への反映を検討していく。

第74回国民体育大会における鳥取県選手団の結果について

令和元年11月29日
ス ポ ー ツ 課

茨城県で開催された第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体2019」に参加した本県選手団の成績について報告します。

1 概要

(1) 参加者数

・本部役員19名(前年19名) ・監督、選手、トレーナー323名(前年366名)

(2) 成績

・正式競技40競技の鳥取県選手団獲得得点714点(参加得点400点、競技得点314点)
前年751点(参加得点400点、競技得点351点)
・男女総合成績(天皇杯)43位(前年40位)、女子総合成績(皇后杯)27位(前年38位)

2 総括

○天皇杯順位は昨年から3つ順位を下げた。競技得点は第69回大会以降6年連続で300点を超えたが、目標とする天皇杯順位30位台には及ばなかった。

- ・会期前の水泳、ビーチバレーボールで高得点を獲得し、その後の各競技選手団にとって励みとなった。
- ・水泳、相撲、カヌー、ボートについては計5種目で優勝を飾り、お家芸のセーリング、自転車も得点源となった。得点が期待されたボートについては、悪天候により2種目が競漕中止となり、想定していた得点が取れず大きな痛手となった。
- ・ホッケー少年女子が3位初入賞を果たし、新種目となったビーチバレーボール少年女子が4位入賞したほか、陸上競技、レスリング、馬術、ライフル射撃、ウエイトリフティングが昨年に続く連続入賞を果たした。
- ・わかとり国体以来34年ぶりに出場したバドミントン成年男子が5位初入賞を果たし、空手道成年女子は3年ぶりに入賞し、いずれも今後につながる結果であった。
- ・皇后杯順位について近年では最高の27位(昨年38位)となり、女性アスリートの活躍が目立った大会となった。カヌーの福本選手は5連覇を果たし、水泳(飛込)においては東京五輪出場内定の三上選手が他を寄せ付けない強さで優勝し、安田選手も見事優勝を果たした。

○天皇杯30位台の定着に向け、引き続き環境整備に努めるとともに、少年種別に出場するジュニア世代の育成をしっかりと行いつつ、成年種別にうまく繋げるよう関係者と力をあわせて取り組んでいく。

3 年度別競技得点及び総合成績

区分	69回(H26) 長崎	70回(H27) 和歌山	71回(H28) 岩手	72回(H29) 愛媛	73回(H30) 福井	74回(R1) 茨城
少年	238.0	220.0	204.25	197.0	181.75	164.5
成年	152.0	102.5	149.25	154.5	169.25	149.5
合計	390.0	322.5	353.5	351.5	351.0	314.0
男女総合成績	38位	40位	42位	42位	40位	43位
女子総合成績	31位	30位	27位	30位	38位	27位

4 競技別競技得点 ※ボート競技は強風の影響により、ベスト4がすべて1位、ベスト8の5位以下がすべて5位の措置

競技名	競技得点	入賞種目数	順位							
			1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
陸上競技	24	5		2				1	2	
水泳	45	8	2	1	1	2	1		1	
ボート	19	2	※1				※1			
ホッケー	48	1			1					
ビーチバレーボール	15	1				1				
レスリング	10	4					4			
セーリング	28	3		1	1					1
ウエイトリフティング	1	1								1
自転車競技	23	2		1					1	
相撲	40	1	1							
馬術	9	3				1		1		1
バドミントン	7.5	1					1			
ライフル射撃	7	2					1	1		
カヌー	35	6	1	1	2		2			
空手道	2.5	1					1			
合計	314点	41種目	5	6	5	4	11	3	4	3

5 入賞状況(別表のとおり)

第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体2019」入賞者一覧

会期 《冬季大会》 スケート競技(北海道) 平成31年1月30日(水)～ 2月 3日(日)
 アイスホッケー競技(北海道) 平成31年1月30日(水)～ 2月 3日(日)
 スキー競技(北海道) 平成31年2月14日(木)～ 2月17日(日)
 《会期前》 3競技(茨城県) 令和元年9月 7日(土)～ 9月16日(月)
 《本大会》 35競技(茨城県) 令和元年9月28日(土)～10月 8日(火)
 ※会期前と本大会で1競技(バレーボール)重複 開催競技は計40競技

- ◎男女総合成績(天皇杯) 第43位(前年40位) 総合得点714点 (競技得点314点、参加得点400点(40競技分))
- ◎女子総合成績(皇后杯) 第27位(前年38位) 総合得点543点 (競技得点183点、参加得点360点(36競技分))
- ・優勝:4競技5種目11名(前年:6競技9種目12名)
- ・入賞(優勝含む):15競技41種目65名(前年:16競技45種目71名)

競技名	種別	種目	順位	競技得点	氏名	所属	
陸上	成年男子	400m	2	7	池田 弘佑	鳥取大学6年	
		400mH	7	2	鍛冶木 峻	住友電気工業	
		やり投	2	7	小椋 健司	日本体育施設	
	少年男子A	100m	3	6	井上 瑞葵	鳥取中央育英高校2年	
		棒高跳	7	2	山根 大輝	倉吉総合産業高校3年	
水泳	競泳	成年男子 100m平泳ぎ	3	6	武良 竜也	木下グループ	
		成年女子 100m平泳ぎ	4	5	石田 華子	木下グループ	
		少年男子A 200m平泳ぎ	5	4	本田 航平	鳥取東高校3年	
		少年女子A 200m平泳ぎ	7	2	平林 優花	米子北高校3年	
		少年女子B 100m背泳ぎ	4	5	宮城 歩優	鳥取大学附属中学校3年	
	飛込	成年女子 飛板飛込	1	8	三上 紗也司	米子ダイビングクラブ	
		少年女子	高飛込	2	7	安田 舞	帝京高校2年
			飛板飛込	1	8		
ボート	少年男子	シングルスカル	1	6.5	博田 凌太	鳥取東高校3年	
	少年女子	舵手つきクォドルプル	5	12.5	上田 奈由子	米子東高校3年	
					宮長 里実	米子東高校3年	
					児島 麻鈴	米子南高校3年	
					井田 汐音	米子南高校3年	
					富田 咲希	米子東高校2年	
					中井 風桜	米子西高校1年	
ホッケー	少年女子		3	48	中口 美羽	八頭高校3年	
					岡垣 汐莉	八頭高校3年	
					澤田 侑東	八頭高校3年	
					瀧本 妃奈	八頭高校3年	
					大川 愛友	八頭高校3年	
					等谷 深玖	八頭高校3年	
					河原 希美	八頭高校3年	
					岡垣 空	八頭高校2年	
					安藤 彩夏	八頭高校2年	
					山下 日菜子	八頭高校2年	
					團野 亜耶	八頭高校2年	
					田淵 美羽	八頭高校1年	
					加藤 美梨	八頭高校1年	

競技名	種別	種目	順位	競技得点	氏名	所属	
ビーチバレーボール	少年女子		4	15	山本 奈都美	米子西高校3年	
					矢田 貝 紫織	米子西高校2年	
レスリング	成年男子	グレコローマンスタイル60kg級	5	2.5	郡野 海	専修大学3年	
		グレコローマンスタイル77kg級	5	2.5	箭田 祐也	鳥取中央育英高校職員	
		グレコローマンスタイル97kg級	5	2.5	岡 矢一	自衛隊体育学校	
	少年男子	フリースタイル55kg級	5	2.5	鳥目 裕太	鳥取中央育英高校1年	
セーリング	成年男子	レーザー級	3	6	瀬川 和正	鳥取県体育協会	
	成年女子	セーリングスピリッツ級	2	21	山本 佑莉 木村 沙耶佳	鳥取県スポーツ課 鳥取県スポーツ課	
	成年女子	国体ウインドサーフィン級	8	1	伊勢田 愛	鳥取県スポーツ課	
ウエイトリフティング	少年男子	81kg級(スナッチ)	8	1	平田 神威	岩美高校3年	
自転車競技	少年男子	ケイリン	7	2	池田 倫之	鳥取西高校2年	
	男子	チーム・スプリント	2	21	山根 将太	中央大学4年	
					保田 浩輔	中央大学2年	
					山根 慶太	鹿屋体育大学2年	
					道祖尾 大輝	倉吉西高校2年	
相撲	少年男子	団体	1	40	アリュージャーダワーニンジ		鳥取城北高校3年
					小関 拓道	鳥取城北高校3年	
					志戸 俊輔	鳥取城北高校3年	
					甲斐 真希斗	鳥取城北高校3年	
					延原 嗣真	鳥取城北高校2年	
					向中野 真豪	鳥取城北高校2年	
					落合 哲也	鳥取城北高校1年	
					馬術	成年女子	ダービー
	トップスコア	8	1				
少年	トップスコア	6	3	青戸 彬真		米子東高校1年	
バドミントン	成年男子		5	7.5	小林 寛哉	鳥取県体育協会	
		林谷 理貴			三菱自動車京都		
		森田 慎司			大同特殊鋼		
ライフル射撃	成年女子	AR60W	6	3	中口 遼	同志社大学4年	
		AR60PRW	5	4			
カヌー	成年女子	スラロームK-1	25G	5	4	遠藤 絵里子	みのぶ観光センター
			15G	5	4		
		スラロームC-1	25G	3	6	福馬 つばさ	早稲田大学2年
			15G	2	7		
		ワイルドウォーターK-1	1500m	3	6	福本 かな子	米子白鳳高校
	スプリント	1	8				
空手道	成年女子	形	5	2.5	川向 七瀬	鳥取県体育協会	
計			41	314	65		

第3回関西シニアマスターズ大会鳥取大会の開催結果について

令和元年11月29日
スポーツ課

「ワールドマスターズゲームズ2021関西」の開催を控え、生涯スポーツの機運をさらに高めるとともに、中高年層のスポーツ参加機会の拡充を図るため、関西広域連合と鳥取県との共催により「第3回関西シニアマスターズ大会」を鳥取県で開催しました。（平成29年から開催。第1回は徳島県、第2回は兵庫県で開催。）

大会には、県内外から1,218名（うち県外から271名）が参加され、競技や交流を楽しまれました。

1 概要

- (1) 名称 第3回関西シニアマスターズ大会 鳥取大会
- (2) 主催 関西広域連合、鳥取県
- (3) 開催競技 7競技 } サッカー、テニス、ソフトテニス、卓球、
グラウンド・ゴルフ、インディアカ、ペタンク
- (4) 参加人数 1,218名 《内訳》 県内947名 県外271名（関西広域連合加盟府県市）
- (5) 開催期日・場所

月 日	時 間	内 容	会 場
10月26日(土)	9:00~	サッカー テニス	布勢総合運動公園(鳥取市) お台場テニスコート(北栄町)
	18:00~20:30	総合開会式・交流会	ホテルモナーク(鳥取市)
27日(日)	8:45~	サッカー・テニス 卓球 ソフトテニス インディアカ グラウンド・ゴルフ ペタンク	同上 布勢総合運動公園県民体育館 布勢総合運動公園テニスコート 米子市美保体育館 布勢総合運動公園 鳥取市営サッカー場が'グラウンド'

※大会初日の10月26日(土)には、鳥取県主催の総合開会式・交流会を開催し、約60名が参加。因幡の傘踊りやホストタウン登録されているジャマイカのレゲエなどで県外参加者をもてなすとともに、本県でも開催する「ワールドマスターズゲームズ2021関西」のPRを行った。



2 競技の様子

- 各競技において、選手が真剣な様子で競技に取り組まれていた。
- 県の内外を問わず、入賞した選手に惜しみなく拍手が送られ、交流の輪が広がった。

【参加者の声】

- ・関西広域にお住まいの方と試合ができ、交流を深められてよかった。(ペタンク参加者)
- ・成績発表までの間にホールインワン競争をするなど、待ちの時間も飽きない工夫があり、自県にはない取組なのでさすが鳥取県だと思った。(グラウンド・ゴルフ参加者)
- ・第1回・第2回大会と参加してきており、第3回大会がある鳥取に来るのを楽しみに待っていた。(サッカー参加者)



中山間地域等活性化・移住定住促進協議会の開催結果について

令和元年11月29日
中山間地域政策課
ふるさと人口政策課

令和元年度第1回鳥取県中山間地域等活性化・移住定住促進協議会を開催し、中山間地域及びまちなか振興施策の実施状況等について、次のとおり議論を行いました。また、今後5G等の情報先端技術の活用により中山間地域の課題解決につなげることを検討するため、(株)ドコモCSから情報提供を受けました。

今回の議論を踏まえて、今後、必要な施策等について検討を進めます。

- 1 日時 令和元年11月7日(木) 午前10時から午後0時10分まで
- 2 場所 県庁議会棟3階特別会議室
- 3 出席者 中山間地域等活性化・移住定住促進協議会委員、県関係部局長等
- 4 報告・協議事項 ・中山間地域振興施策の取組状況等について
・まちなか振興について
・移住定住の促進について
- 5 情報提供事項 「中山間地域における5G等技術の活用について」
- 6 主な意見

〔中山間地域振興施策・まちなか振興に関する意見〕

- ・2025年問題^{*1}が近づいており、今いる人で維持できる社会、地域にどう変えていくのかが大きな課題だと思う。
- ・大きな道は県や市が除雪するが、住宅地の中の除雪は地元対応となっている。平日にいるお年寄りだけでは除雪は無理であり、ボランティアなどに手伝ってもらえるような仕組みがあればいい。
- ・お年寄りなどへの配食サービスに取り組んでおり、8050問題^{*2}や、若い方のひきこもりなどの現実を目にする。ひきこもりの方が仕事をしてくだされば、今の人材不足の助けにもなると思う。
- ・単に人口を増やすだけではなく、その先の、地域の担い手や税収を増やせるような人間を増やしていくことを、次に目指していくべきだと思う。プレイヤーとなる人材をどう育てるか、教育面や産業面から応援していただきたい。
- ・地域の実態について、基本的なデータをしっかりとっておくことが必要である。

※1 団塊の世代が2025年ごろまでに後期高齢者(75歳以上)となることにより、医療費など社会保障費の急増や社会の担い手不足が懸念される問題

※2 80代の親が引きこもりの50代の子どもの生活を支える問題

〔移住定住の促進に関する意見〕

- ・中山間地域の空き家は昔農家だった大きな家が多く、移住者が住めるような小規模な空き家が少ないので、大きな家を敬遠して市部のアパートに住むケースがある。人口流出が進む地域に小家族が住めるような住宅が増えれば、その地域の商店なども維持され、活性化につながると思う。
- ・移住してきたが鳥取のような田舎でも十分住みやすい。メディアをうまく利用し、まずは人に来ていただいて地域を見てもらうことが大切だと思う。
- ・最近では地方都市へ移住後、周辺の農山村に移住する二段階移住が多いと聞く。中山間地域よりも人間関係が希薄な地方都市での受入態勢、フォローを考える必要があると思う。
- ・県人会に参加しない県出身者も多いと思う。これらの方に今の鳥取県の情報や良さをPRすることが重要であり、例えば、同級生ネットワークへの行政のサポートも考えてはどうか。
- ・移住者の数を把握するだけでなく、移住した後の定住状況を把握することが必要である。

〔参考〕「中山間地域等活性化・移住定住促進協議会」の概要

中山間地域等の振興及び移住定住促進に関する事項を調査審議するために、鳥取県附属機関条例に基づき設置されている附属機関。(現委員任期：平成29年11月20日～令和元年11月19日)

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 〔委員〕 筒井 一伸 (鳥取大学地域学部教授) | 東口 善一 (ファルコン代表) |
| 山下 和子 (湯梨浜町農業委員会委員) | 入澤 由美 (特定非営利法人YSSだいでん代表) |
| 中村 恭子 (グラフィックデザイナー) | 安達 香澄 (ほわっと米子応援隊代表) |
| 樋口 浩司 (樋口農園代表) | 渡會 昂佑 (合同会社ジブンゴト代表) |
| 川上 幸恵 (美用レディース代表) | 中谷 哲 (公募委員) |

ティーエスアルフレッサ株式会社との中山間集落見守り活動に関する協定の締結について

令和元年11月29日
中山間地域政策課

中山間地域に暮らす高齢者など住民の安全・安心な暮らしを守るため、ティーエスアルフレッサ株式会社と県内19市町村及び鳥取県は、中山間集落見守り活動に関する協定を締結し、次のとおり調印式を行いました。



1 日時 令和元年11月13日(水) 午前10時から

2 場所 鳥取市役所6階 第3会議室

3 出席者

ティーエスアルフレッサ株式会社 執行役員

山陰営業部長 松嶋 享助 氏

鳥取市市民生活部長 安本 哲哉 氏

鳥取県地域づくり推進部中山間・地域交通局長 太田 裕司

※協定参加市町村の合意に基づき鳥取市が代表して押印し、他の18市町村は後日押印

4 協定内容

(1) 見守り活動の内容等

対象地域において、社員等が事業活動時に高齢者の異常等を発見した際に市町村へ連絡する。

〔対象地域〕 県内19市町村のうち、事業者が日常的に業務を行う地域

(2) 協定期間

令和元年11月13日から令和2年11月12日までの1年間(以後、協定締結者から終了の意思表示がなければ1年間更新)

(参考1) 協定締結の状況

今回の協定締結によって累計で71事業者となる。

(参考2) 見守り活動の通報事例

- 新聞のたまった家を不審に思い通報。家の中で倒れている家人を発見。救急車で搬送され、一命をとりとめた(H21年 鳥取市佐治町)
- 移動販売車で移動中、側溝にはまって倒れている女性を発見し、救急車を手配。病院搬送され、その後女性は助かった(H25年 南部町)

■ティーエスアルフレッサ株式会社の概要

商号 ティーエスアルフレッサ株式会社 (TS Alfresa Corporation)

本店所在地 〒733-8633 広島県広島市西区商工センター一丁目2番19号

(鳥取県内の支店 鳥取支店、倉吉支店、米子支店)

事業内容 医療用医薬品、医療用検査試薬、医療器械・器具、衛生材料、衛生用品、食品、医療用事務機器等の卸売販売およびSPD事業等

設立年月日 昭和22年4月7日

資本金 1,144百万円

売上高 157,696百万円(平成30年3月)

従業員数 1,139名(平成31年4月1日現在、パート社員含む)

第3回新たな地域交通体系構築のための研究会の開催結果について

令和元年11月29日
地域交通政策課

利用者減少に伴う収益減やドライバー不足等の県内地域交通の課題を踏まえ、8月1日に「新たな地域交通体系構築のための研究会（座長：鳥取大学谷本教授）」を立ち上げ、県内の地域交通の問題点の把握（ドライバー不足、バスの低乗車率、共助交通の継続性等）、先進地視察や県内市町村との意見交換を実施しました。

11月15日に開催した第3回研究会で、今までの検討を踏まえて、各市町村の実情に応じて、地域にフィードバックできる新たな地域交通体系《鳥取モデル》アイデアを提示したところ、方向性について理解が得られました。その概要は以下のとおりです。

- 1 日 時 令和元年11月15日（金）15時～16時45分
- 2 場 所 県庁 34会議室
- 3 出席者 鳥取大学 谷本教授（座長）、米子高専 加藤教授、中国運輸局鳥取運輸支局 米田首席、県バス協会 澤志郎会長、県ハイヤータクシー協会 岡理事、日本財団 木田所長、県警本部 運転免許課、JR 米子支社、市町村、県関係課等
- 4 会議概要等

(1) 県内市町村の意見

- ・タクシー等交通事業者が存在している場合は支援して地元に残したい（撤退は避けたい）
- ・朝、夕の路線バスは通勤、通学用として維持したい
- ・住民ドライバーと交通事業者との連携を図りながらドアツードア型の移動手段を確保したい（共助交通組織を一から立ち上げるのはハードルが高い）
- ・財政支出を抑えたい

(2) 施策アイデア（地域交通体系《鳥取モデル》）について（詳細図は別添）

住民ドライバー×交通事業者モデル

不採算エリアにおいて交通事業者等が住民ドライバーを運行管理する自家用有償運送を実施

住民主体の共助交通モデル

日本財団のカーシェアリング等の取組を他地域へ展開していくための支援（アドバイザー派遣等）や有償運送に向けた無償運行試験期間の支援（車両リース料等）の延長

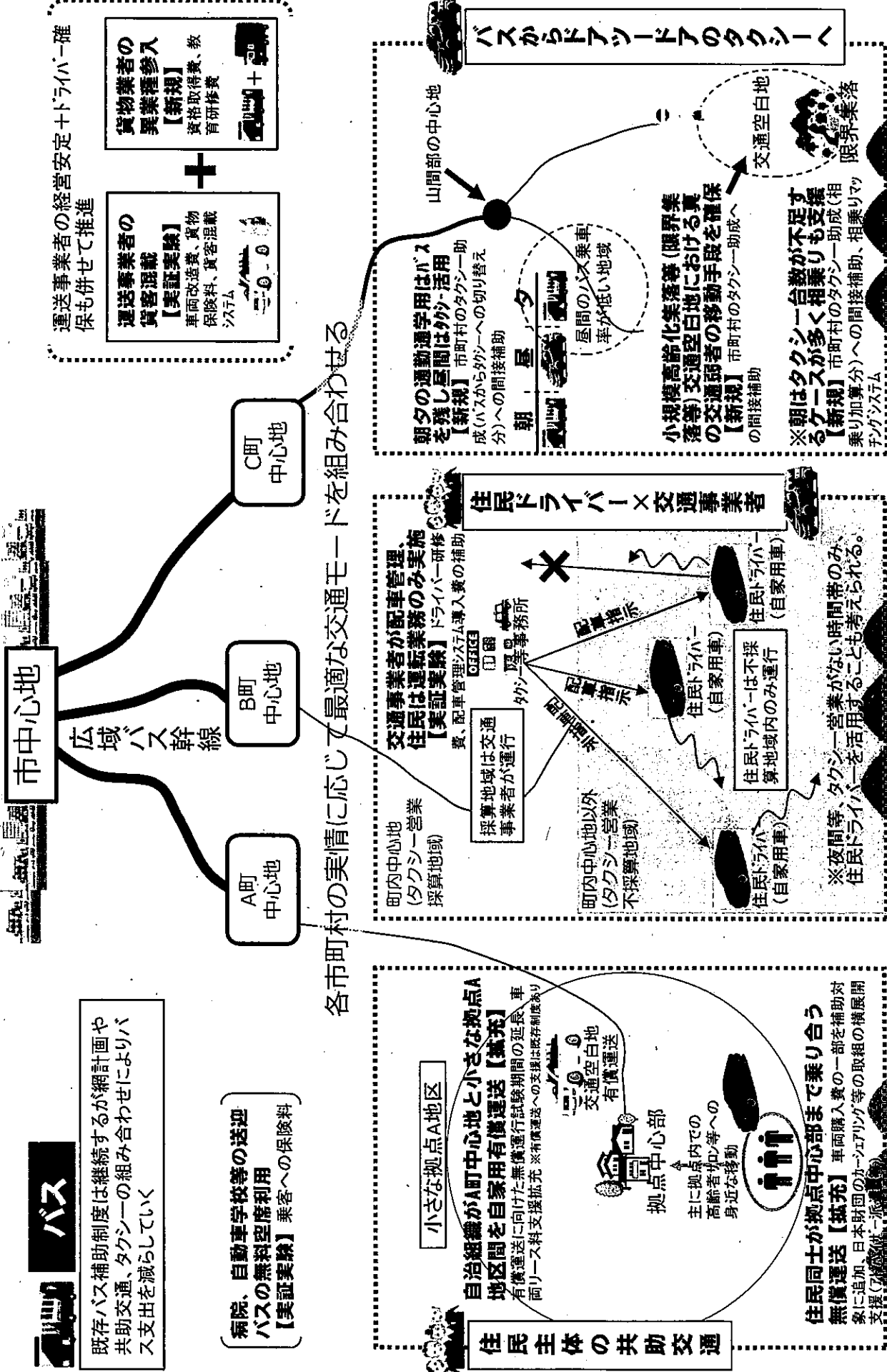
タクシー活用モデル

- ・昼間のバス乗車率が低い時間帯はタクシーに切り替える
 - ・いわゆる限界集落等の交通空白地における真の交通弱者に対してはタクシー助成
 - ・相乗りの場合にインセンティブ付与
- ⇒ドアツードア型に移行

(3) 第3回研究会での主な意見

- ・タクシー補助制度が創設されれば活用を検討したい（日南町）
 - ・鳥取市では交通空白地の共助交通を進めており、共助交通の有償運送に向けた無償運行試験期間の支援の延長をしてもらえればありがたい（鳥取市）
 - ・交通事業者が住民ドライバーの運行管理を行う養父市モデルは魅力的である（智頭町）
 - ・タクシー会社が住民ドライバーを運行管理する場合は、安全性や事故が起こった時の責任の所在等の整理が必要である（交通事業者）
- ⇒本県では市町村運営有償運送が想定されており、その場合の事故時の責任は第一義的に運行主体である市町村となることを鳥取運輸支局に確認済み。

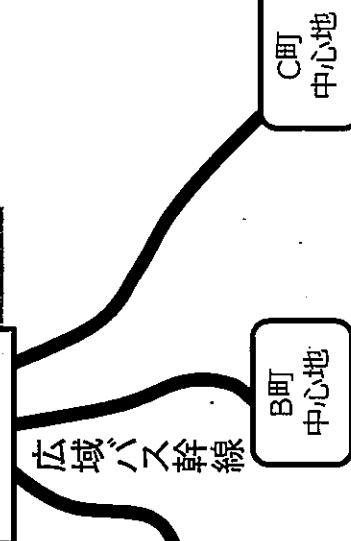
地域交通体系《鳥取モデル》構築の施策アイデア（イメージ）



バス

既存バス補助制度は継続するが網計画や共助交通、タクシーの組み合わせによりバス支出を減らしていく

病院、自動車学校等の送迎
バスの無料空席利用
【実証実験】乗客への保険料



運送事業者の経営安定+ドライバー確保も併せて推進

運送事業者の貨客混載 【実証実験】
車両改造費、貨物保険料、貨客混載システム

貨物業者の異業種参入 【新規】
資格取得費、教育研修費

各市町村の実情に応じて最適な交通モードを組み合わせる

住民主体の共助交通

自治組織がA町中心地と小さな拠点A地区区間を自家用有償運送【拡充】
有償運送に向けた無償運行試験期間の延長、車両リース料支援拡充 ※有償運送への支援は既存制度あり

拠点中心部
主に拠点内での高齢者、幼児等への身近な移動

交通空白地 有償運送

住民同士が拠点中心部まで乗り合う
無償運送【拡充】車両購入費の一部を補助対象に追加、日本財団のカーシェアリング等の取組の横展開支援（共同利用車）

住民ドライバーx交通事業者

町内中心地（タクシー営業採算地域）

町内中心地以外（タクシー営業不採算地域）

交通事業者が配車管理、住民は運転業務のみ実施 【実証実験】
ドライバー研修費、配車管理システム導入費の補助

タクシー業務所

配置指示

住民ドライバー（自家用車）

住民ドライバーは不採算地域内のみ運行

※夜間等、タクシー営業がない時間帯のみ、住民ドライバーを活用することも考えられる。

バスからドアツードアのタクシーへ

山間部の中心地

朝夕の通勤通学用はバスを残し昼間はタクシー活用 【新規】
市町村のタクシー助成（バスからタクシーへの切り替え分）への間接補助

朝・昼・夜

屋間のバス乗車率が低い地域

小規模高齢化集落等（限界集落等）交通空白地における真の交通弱者の移動手段を確保 【新規】
市町村のタクシー助成への間接補助

交通空白地 限界集落

※朝はタクシー台数が不足するケースもタクシー助成（相乗り加算分）への間接補助、相乗りシステム

中山間地域

中山間地域

中山間地域

米子鬼太郎空港のリニューアルオープンについて

令和元年11月29日
地域交通政策課



平成30年5月から実施していた米子空港ターミナルビル施設拡張整備事業がこのたび完了し、令和元年11月1日から供用開始、同月8日リニューアルオープンいたしました。

1 米子空港ターミナルビル施設拡張整備事業の概要

(1) 目的

国内線・国際線の搭乗手続の円滑化や搭乗待合室、手荷物受取場、税関検査場等の空港施設の狭隘化等に対応するため、米子空港ターミナルビル施設を拡張整備し、旅客の受入環境高度化を図る。

(2) 主な内容

項目	内容	改修後の状況
国際線固定橋・搭乗橋新設	国際線を中心とした受入能力向上を図るため、固定橋・搭乗橋対応スポットを3箇所(現行2箇所)に増設	 <p>固定橋・搭乗橋新設</p>  <p>搭乗待合室拡張</p>
国際線、国内線搭乗待合室拡張	待合室を拡張するとともに、国内線・国際線輻輳時の混雑解消のため手荷物検査場を3レーン(現行2レーン)に拡大(国際・国内計) 670㎡⇒780㎡	
国際線手荷物受取所・税関検査場等拡張	税関検査場・手荷物受取所を拡張(270㎡⇒420㎡)	
国際線到着ロビー拡張	国際線到着ロビーを拡張(130㎡⇒270㎡)	
出発ロビー拡張	手荷物検査場の拡張に伴い、出発ロビーを拡張(750㎡⇒870㎡)	

(3) 総事業費 1,643百万円(国206百万円、県545百万円(国31298百万円・RI247百万円) 空港ビル892百万円)

(4) 事業実施期間 平成30年5月～令和元年10月

2 米子鬼太郎空港増改築工事竣工祝賀会

- ア 日時 令和元年11月8日(金) 18時～19時45分
- イ 場所 ANAクラウンプラザホテル
- ウ 出席者 米子空港ビル、行政、観光、エアライン、工事関係者ら約120名
- エ 主催 米子空港ビル株式会社



増改築工事竣工祝賀会

3 米子鬼太郎空港リニューアルオープンイベント

- ア 日時 令和元年11月9日(土)、10日(日)
- イ 場所 米子空港ターミナルビル内
- ウ 内容 お笑い芸人や歌手、がいな太鼓や地元境高校書道パフォーマンス、米子西高校ダンスパフォーマンス等のステージイベント、かに汁無料振る舞いや大江の郷自然牧場などの飲食物販ブース、淀江傘やANAビジネスシートなどの展示
- エ 来場人数(土・日合計) 延べ3千人
- オ その他 リニューアルオープンに合わせ、空港の新たな賑わい創出に向けて、誰でも自由に演奏できるストリートピアノ(空港ピアノ)を中四国地方の空港では初めて設置した。(設置期間は来年3月末まで)



屋上ステージイベント



空港ピアノ

大山道（坊領道）の「歴史の道百選」の選定について

令和元年11月29日
とっとり弥生の王国推進課

令和元年10月29日に、大山町に所在する大山道（坊領道）が文化庁の「歴史の道百選」に追加選定されました。

1 選定の概要

(1) 名称 大山道（坊領道）（だいせんみち（ぼうりょうみち））
延長 約1,850m（大野池口～種原入口）

(2) 所在地

鳥取県西伯郡大山町飯戸

(3) 坊領道について

坊領道は、奈良時代に創建された伯耆国大山寺への参詣道である「大山道」の主要五道（横手道・川床道・坊領道・尾高道・溝口道）の一つ。鳥取藩領の淀江湊、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている所子集落等、大山北麓の大山寺領内の村々を経由して大山に詣でる南北筋の総称である。

道沿いには一町（約109m）毎の間隔で置かれた一町地蔵や常夜燈、「地蔵道」と彫られた石碑（道標）が残されているなど、大山寺の地蔵信仰が盛行であったことを伝えるとともに、人々が牛馬を引き連れて大山博労座（大山牛馬市）を目指した街道でもある。

今回追加選定された道の現況は舗装されていない土道で、坊領道の中でも特に往時の面影を良く残している。

*日本遺産「地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」の構成文化財となっている。

2 ウォーキングイベント「歩き・み・ふれる大山古道 in 坊領道」の実施結果

(1) 日時：令和元年11月10日（日）午前10時から午後1時まで

(2) 場所：県立大山青年の家、坊領道現地

(3) 参加者数：31名

(4) 概要：

- ・現地に残された道標や一町地蔵を一つずつ見ながら、今回の選定範囲約1.8キロを回った後、文化庁の技官による講演「歴史の道について」が行われた。
- ・参加者の声：天気も良く、歴史を感じられる道歩いて大変面白かった。県内の他の古道も、今後は是非歩いてみたい。



ウォーキングイベントの様子

【参考】

(1) 「歴史の道百選」とは

- ・我が国にとって歴史的・文化的に重要な由緒を有する古道や交通関係遺跡について、その保存と活用を広く国民に呼びかけ顕彰するため、文化庁が都道府県教育委員会から候補を募り選定する制度である。
- ・平成8年に第一次選定として主に明治時代までに活用された78か所が選定され、これを契機に、これらの道を歩きながら周辺の文化財にも触れ、地域の歴史文化への理解を深めるウォーキングイベント等が多く実施されている。
- ・今回、新規・追加合わせて、33道府県から36か所が選定され、選定総数は114件となった（今後、追加は無し）。

(2) 鳥取県の選定箇所

※追加選定の場合、件数は増加しない。

選定箇所（市町村名は平成8年当時）	追加箇所
①大山道－川床道・横手道（大山町・中山町・東伯町・関金町）	大山道－坊領道（大山町）
②山陰道－蒲生峠越（岩美町）	
③智頭往来－志戸坂峠越（智頭町）	